

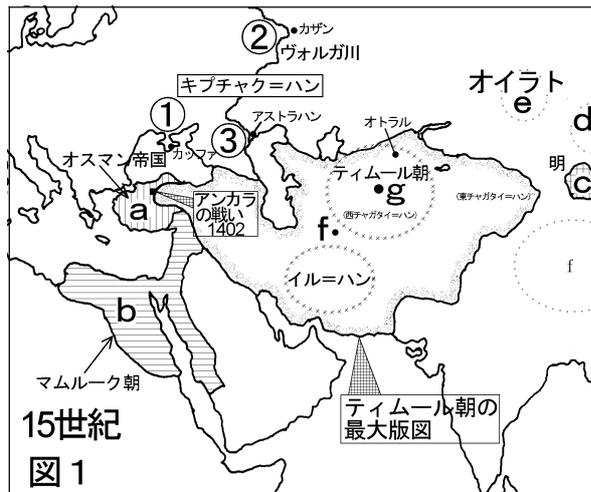
ティムール朝 1370-1507

1) 西チャガタイ=ハン国の軍人出身のティムール 1336-1405 は1370年、
 【1: _____】をおこした。たちまち中央アジア西部を支配、トルキスタンを統一。イル=ハン国を制圧、その滅亡(1353)後にイランを併合。キプチャク草原東部をも支配。北インドにも侵攻、トゥグルク朝を破り一時デリーを占領し(1398)、ユーラシア大陸の中心部をおおう大帝國に成長した。
 首都は【2: _____】(図1のg)。11W 彼らは東西交易路の安全を望むオアシス商人たちの支援を得ていた。

フン人の大王アッティラ 位433?-453 との混同に注意。

なお、図1の①②③は衰退期を迎えたキプチャク=ハン国 (No.76 参照 1243-1502、首都サライ) から15世紀に自立した。

- ①クリム=ハン国 (1430?-1783、18世紀にロシア帝国に併合された)、
- ②カザン=ハン国 (1438-1552、イヴァン4世に征服された)、
- ③アストラハン=ハン国 (1466-1556、イヴァン4世に征服された)
- ①は黒海北岸、②はヴォルガ川中流域、③はヴォルガ川下流域。



15世紀 図1

2) 1402年、ティムールは【3: _____】でオスマン帝国軍を破り、スルタンの【4: _____】位1389-1403を捕虜にした。【4】は捕らわれたまま翌年病死し、オスマン朝は一時空位となり1402-13 滅亡の危機に瀕した。《頻出》09W ティムールは、元の旧領土奪還を目指し明を討つ遠征の途上、1405年、中央アジアのオトラルで病死した。

ティムールはスルタンではない! ……ティムールはチンギス=ハンの後継者と称した。彼はトルコ語化したモンゴル部族出身ではあるが、チンギス家出身ではなかった。そこでチンギス家の末裔を形だけのハーンとして保護し、自らはアミール(司令官)を名乗った。

《ティムールのプロフィール》 趣味は将棋(日本のとは違うが)、口癖は「男の行く道はただ一つ」。兵に生水を飲むことを禁じたことが、茶(チャイ)を飲むトルコの習慣の起源だとされる。建国以来35年間無敗の彼は、サマルカンドを中央アジア有数の大都市に育てたので、「チンギスは破壊し、ティムールは建設した」と評価されている。

その死後、ティムール帝国は約百年存続した。ティムールの第4子、第3代君主、シャー=ルフ 位1409-47 の時、帝国は最盛期を迎える。シャー=ルフは都を【5: _____】(図1のf)に移した。明やオスマン帝国と親善関係を維持し、学芸を奨励した。

3) ティムールとその子孫たちは、【6: _____】の文化を継承し発展させ、イラン人の世界とトルコ語系の人々の世界を統合した。サマルカンドやヘラートでは【7: _____】が栄えた。サマルカンドは商業と学術の中心であった。

i) トルコ語(厳密にはチャガタイ=トルコ語)による文学作品が書かれた。ティムール朝の宮廷では、トルコ語とペルシア語が用いられ、後のオスマン帝国におけるオスマン語の成立に貢献した。

ii) 【8: _____】(ミニアチュール)が作成された。教科書、図説などに掲載されているティムールの肖像画を必ず見よ。細密画とは、このような描き方の絵画を指している。

細密画(ミニアチュール)は、9世紀にアッバース朝の宮廷に起こった書物の挿絵や装飾に描かれた精密な絵画。偶像崇拝を禁じるイスラーム世界では宗教画というものは限られているから、絵画文化はなかなか発達しなかった。13世紀イル=ハン国の成立で、細密画は中国画の影響を受けて発達した。イランからインドに伝わり、ムガル絵画、ラージプート絵画に影響を与えた。

iii) ティムールの後継者の一人、第4代ウルク=ベグ 位1447-49 はサマルカンド郊外に【9: _____】を建設し、高度な天文観測を行って精緻な暦を作成したことで知られる。彼は内乱で暗殺され、以後ティムール朝は衰退期に入った。

4) ティムール朝を滅ぼしたのはサファヴィー朝ではなく、【10: _____】である。彼らはチンギス=ハンの長子ジュチの末裔を君主とするトルコ・モンゴル系遊牧集団である。1428年、ジュチの末裔で遊牧ウズベク(ウズベク人)を率いたシャイバーニー家(シャイバーン家)が建国したが、1468年ティムールによって一度は滅ぼされた。1500年、同家の【11: _____】がティムール朝の衰退に乗じて復興し、主要都市【12: _____】を攻略、そこを首都と定める。彼は、1505年、【13: _____】を建て、1507年、ティムール朝を滅ぼした。しかし、1510年、創建者イスマーイル1世が率いる【14: _____】との戦いで【11】は戦死し、シャイバーニー朝も1599年に滅亡した。

5) シャイバーニー朝の旧領域は分裂して、滅亡前に④ブハラ=ハン国 1505-1920、⑤ヒヴァ=ハン国 1512-1920 が成立。滅亡後の1710年頃に④から、⑥コーカンド=ハン国 1710?-1876 が自立した。それらの位置を図2に示した。これらは、チャガタイ=ハン国衰退期に自立した図1の①クリム=ハン国、②カザン=ハン国、③アストラハン=ハン国と混同しやすく、注意が必要である。①②③は16~18世紀、④⑤は、19世紀後半、ロシアに併合、⑥は保護国化された。ロシア帝国史の中に位置づけて覚えよう。

6) ここで、若干遡るが、ティムールから5代目の直系子孫



図2

の【15:】1483-1530は、イランのサファヴィー朝の支援を受けて、いったんサマルカンドを奪回したものの、シャイバーニー朝にサマルカンドを追われ、ティムール朝滅亡の3年前の1504年、カーブルに移った。その後、北インドに移動、1524年にインダス川を渡ってパンジャーブに2度目の侵攻でラホールを支配し、1525年にはパンジャーブを占領。1526年、ロディー朝が10万とも言われる象の大軍を率いて奪還をはかった。パーブルはわずか1万の軍で【16:

】に大勝し、デリーとアグラを占領、遂に皇帝 1526-30として即位、ムガル帝国を創始した。パーブルはムガル帝国の指導者としては4年間しか在位せず、ムガル帝国は、第2代のフマユーンの時に一度滅びかけたので、実質建国者は第3代のアクバルである。

【受験生用小ネタ】 16世紀初めにティムール朝を滅ぼしたのは遊牧ウズベク。840年にウイグルを滅ぼしたのはキルギス。6世紀初め、グプタ朝を衰退させたのはエフタル。カタカナ4文字の勢力が重要な役割を演じている。一代で巨大な勢力を成した例としては、5世紀半ばにフン人を統合したアッティラがあげられるだろう。ティムール朝はティムールの死後、分裂・統合を繰り返しながら約100年存続したが、アッティラの国は彼の急死で崩壊した。

ティムール帝国滅亡（1507年）の後は

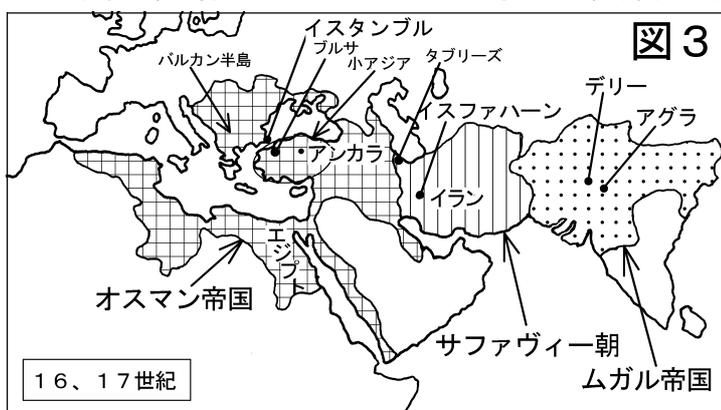
16、17世紀、18世紀はじめまで オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国が東西に並ぶ！

1299-1922

1501-1736

1526-1858

巨大なイスラーム帝国が3つ横に並ぶのはこの時期だけ。下の図3の境界線を見ただけで、ティムール帝国滅亡後だ、16、17世紀だ、と分からなくてはいけない！もちろん、帝国の呼称、首都の位置と地名も。



これら3国は、16世紀後半までに全盛期を迎え交易でも文化でも世界最高水準を誇った。それぞれの帝国の代表的な建造物は、オスマン帝国のスレイマン1世の建立したスレイマン=モスク（イスタンブル、ハギア=ソフィアとよく似ている）、サファヴィー朝のアッバース1世が建てたイマームのモスク（イスファハーン）、そして17世紀中期にムガル帝国で建立されたタージ=マハル（アグラ東郊）である。しかし、18世紀に入るとこれらの三大国家にもかげりが見えてくる。もう一度言うが、図3の3帝国の名称、首都及びそれらの位置を記憶せよ。

では、No.87以降で西から順にオスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国の順に学んでいこう。

2006センター 抜粋

第1問 問4 下線部(4)の地域（内陸アジア）について述べた文として正しいものを一つ選べ。

正解 ②

- ① 光武帝が、西域に張騫を派遣した。
- ② ティムール帝国が、サマルカンドを中心に繁栄した。
- ③ イル=ハン国が、サライを中心に繁栄した。
- ④ 清は、ブハラ(ボハラ)・ヒヴァ・コーカンドの3ハン国を占領した。

2008 学習院大学 抜粋

正解は、西チャガタイ=ハン国

ティムールは「チンギス=カン」の子孫の治める中央アジアのモンゴル国家の混乱に乗じて決起し、広大な帝国を建設した。ティムールの出身地でもあるその国を記しなさい。

2009 慶應義塾大学 抜粋

こうして中央アジアはモンゴル帝国の一部となり、その後内紛の時代を経て14世紀初頭にはチンギス=ハンの次男であったチャガタイの子孫による支配が確定した。このチャガタイ=ハン国はまもなく東西に分裂し、1360年代に入ると再統一された。このような状況下に、トルコ化・イスラーム化したモンゴルのバルラス族出身のティムールが出現し、1370年にはマー・ワラー・アンナフルの支配権を握り、その後、度重なる遠征を敢行して西アジアへも大きく領土を広げた。ティムールは、当時(G)朝の支配下にあったシリアにまで進軍し、1401年にはダマスカスを占領した。この時、そこには、チュニス出身のイブン=(H)が滞在していた。『世界史序説』において独自の歴史・経済・社会の理論を展開したこの大学者は、ティムールと会見し、この中央アジアの英傑に好印象をいただいたのである。ティムールはその翌年には、東アナトリアへと勢力を拡大していたオスマン朝の軍をアンカラの戦いで破り、スルタンのバヤジット1世を捕虜とする戦果をあげた。

ティムール朝の時代には、同王朝の2つの都、すなわち、ティムールによる建設事業と都市計画によって中央アジアの中心都市へと復興した(D)、それに、アフガニスタン北西部のオアシス都市の(I)を中心的な舞台として、芸術・建築・学術・文学など各分野で華麗な活動が展開された。ティムール朝の王子であったパーブルの回想録『パーブル・ナーマ』も、同王朝末期の高度な文学活動の流れのなかに位置づけられる。ティムール朝崩壊期の中央アジアでの軍事活動に困難を感じたパーブルは、1519年以降、アフガニスタンのカーブルを拠点として北インドへの侵入を繰り返した。そして、1526年、デリーの北方にある(J)における戦いでロディー朝の軍を破り、デリーやアグラを占領してムガル帝国を創設した。つまり、南アジア史上における最大のイスラーム国家であるムガル帝国は、ティムール朝の継承国家としての性格を帯びているのである。

正解 D サマルカンド E ハディース G マムルーク H ハルドゥーン I ヘラート J パーニーパット